



総合資料館だより

2001.7.1 No.128



伊住宗晃 氏



門脇禎二 氏



脇田晴子 氏



藤井譲治 氏

再開館記念「きょうと・歴史と文化の木曜講座」開催

府立総合資料館では、この度の再開館を記念して、当館の核資料である京都の歴史と伝統文化について、各分野の専門家8人による講演会を開催しています。

第1回は、5月24日(木)に伊住宗晃氏(裏千家総務)をお迎えし、「茶の湯の魅力」と題してご講演をいただきました。伊住氏は、「お茶」が日本で四百五十年以上続いてきたのは、「守破離」即ち「守」・基本、「破」・応用、「離」・基本と応用を踏まえたオリジナリティ、を繰り返してきた革新性があったからであることを指摘されるとともに、日本文化のあらゆるところにつながり、幅広く、奥深いお茶の世界、伝統文化の世界に是非触れていただきたいと結ばれ、受講者の皆さんからも大変好評でした。

その後も、第2回・門脇禎二氏(元京都府立大学学長)、第3回・脇田晴子氏(滋賀県立大学教授)、第4回・藤井譲治氏(京都大学大学院教授)とご講演をいただき、7月12日まで8回シリーズで開催します。

目次	寄贈資料紹介「平和家文書」.....2	ご覧ください「貴重書データベース」.....4
	文書閲覧室から「東寺百合文書写真帳の閲覧」他...5	明治の京都「デ・レーケと市川義方」.....6
	最近の収集資料から.....7	東寺百合文書展のお知らせ・友の会事務局から 他...8

寄贈資料紹介

ひら 平和 け家 もん文 じょ書

この度、綾部藩の重臣であった平和家の御子孫から、京都府の歴史研究のためにと、文書の寄贈がありましたのでご紹介します。

平和家文書の概要

平和家は、藩主九鬼家が綾部に入部する以前からの譜代の家で、当主は代々「源太夫」を名乗り、藩の町奉行、寺社奉行、用人、大目付、家老や綾部藩権少参事、本宮村（現綾部市）の戸長、学務委員などを勤めました。

今回、寄贈いただいたのは、永正8(1511)年から昭和8(1933)年までの文書1,628点で、主な文書は組織や職務別に次の6つに分かれます。

(1)江戸幕府下の綾部藩関係文書（約900点）

綾部藩の概要は表のとおりです。機構は図のように推定されますが、内部は3機構に分かれ、文書もこの機構にそくして次の3つに分かれます。

藩政統括機構関係文書（約270点）

藩政を統括する機構に関する文書です。藩庁における年始の儀礼の様子、藩士の進退に関するなどが書かれている「大目付日記」（写真1）、平和源太夫安遷宛の第9代藩主九鬼隆都書状（写真2）、「天保十四年癸卯八月切手代新札勘定」「御借財覚」など賄方や藩札など藩財政に関する文書、家老、奉行、大目付、寺社奉行、町奉行、郷方等の退役願、藩政についての「覚書」があります。

幕府軍役機構関係文書（約260点）

將軍への「奉公」である軍役を勤める機構に

綾部藩の概要

入部	寛永11(1634)年
石高	1万9,500石
藩主変遷	九鬼家（ <small>たかすえ</small> 隆季、 <small>たかつね</small> 隆常、 <small>たかなお</small> 隆直、 <small>たかのぶ</small> 隆寛、 <small>たかさだ</small> 隆貞、 <small>たかよし</small> 隆祺、 <small>たかさと</small> 隆郷、 <small>たかのり</small> 隆度、 <small>たかひろ</small> 隆都、 <small>たかとも</small> 隆備）
陣屋の所在地	綾部市本宮町（慶安4年以降）
家臣数	209人（安政3(1856)年）

*典拠資料『藩史大事典』。藩関係の閲覧可能な関連文書については「資料館紀要 第27号」を参照。



写真1 大目付日記

関する文書です。軍役遂行上作成・取得された文書に、戦闘組織である軍陣の「当家備割帳」、江戸城日比谷門警護時に提出された車の通行許可願などがあります。武芸に関する文書に、軍学書の甲陽軍鑑、馬術の流派である大坪本流に関する文書などがあります。

領内行政機構関係文書（約370点）

大名には、將軍への「奉公」に対して「御恩」として領地が与えられました。その領地の行政機構に関する文書です。寺社奉行に関するものに、村から奉行あてにだされた宗旨人別帳・五人組帳の正本があります。平和家の当主が寺社奉行を勤めたとき邸宅が役所であったため残ったものと考えられます。そのほか、年貢である米の作柄の検分を行う検見に関する文書、現在の綾部市と三和町の境にある七山（須知山、質山）に開発に関する文書、由良湊から福知山、綾部、殿田、嵯峨、大坂へと由良川 - 陸路 - 大堰川 - 淀川を利用して荷物運搬を行う「通船」に関する「(文政13年)通船之條目并問屋株諸書」などがあります。

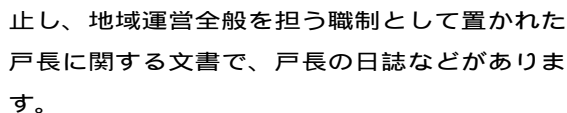
(2)新政府下の綾部藩関係文書（約15点）

綾部藩は明治維新により新政府下の地方行政組織となり、版籍奉還、廃藩置県を経て明治4(1871)年に京都府と合併します。平和源太夫への綾部藩権少参事辞令（写真3）、寺社方の控などがあります。

(3)本宮村戸長関係文書（約90点）

明治5(1872)年、庄屋、年寄などの旧称を廃

(平成13年7月段階の推定)



学務委員は明治12(1879)年に設置され、地元
の学校事務の運営に携わった役職です。学用品、
旅費等の請求書があります。

明治9(1876)年に、政府が華・土族に金禄公債を交付して家禄、賞典禄の支給を廃止した秩禄処分に関する文書で、「土族禄米受取手形」、公債証書についての京都府知事宛「御断書」などがあります。

武家平和家の家系、冠婚葬祭、教養、趣味などに関する文書、写本、版本などがあります。

丁酉年八月廿九日
今日は、いよいよ、
秋の気配が、
おぼえられ、
心も、
静かになり、
秋の味を感じ、
秋の風を、
感じ、
秋の空を、
感じ、
秋の月を、
感じ、
秋の星を、
感じ、
秋の光を、
感じ、
秋の色を、
感じ、
秋の音を、
感じ、
秋の香りを、
感じ、
秋の味を、
感じる。

九月

平和源次夫
任綾部藩權
少參事候事
明治三年正月

務にそって文書を紹介しました。文書は組織の業務遂行のために作成、取得された書類で、組織の、人間でいうところの記憶にあたるものといえます。平和家文書は、武家である同家の「記憶」であるとともに、綾部藩の、また同藩は明治4年に京都府と合併しますので京都府の「記憶」ともいえます。記憶なくして歴史は語れません。各組織の「記憶」である同家文書は、京都府域の歴史研究に必要なものといえます。保存に努め、幅広く活用していただけるよう調査研究を行いますので、積極的なご利用をお待ちします。

- 3 -

ご覧ください「貴重書データベース」

総合資料館の再開館に伴い、新たに「貴重書データベース」を公開することになりましたのでご紹介します。

これは、当館所蔵の貴重書約600点のうち、約150点をデジタル撮影し、データベース化したもので、当館と府立図書館に設置している専用端末で閲覧していただけます。この端末の画面は、通常のテレビ画面の3倍の画素数で、鮮明な高精彩の画像を見ていただくことができるもので、印刷（カラーコピー）もできます。（印刷は有料です。）

また、府立図書館のホームページからも、同様の画像情報を発信していますので、以前は研究者の方々にしか閲覧していただくことができなかった貴重書を、どなたにも自宅や学校、職場等に居ながらにして見ていただけるようになりました。（ただし、ホームページの画像は館内の端末よりも精度が落ちます。）

今回デジタル化した貴重書は、系統的な写本、古活字版等がそろっていることで全国に知られている「平家物語」の諸本のように利用が多いもの、奈良絵本の「あつもり」「ふんせう」のように色彩の鮮やかなもの、「琵琶湖疏水図誌」や「宝永花洛細見図」のように京都に関わりの深い資料、あるいは史料価値の高い公家の日記等、さまざまな観点から選定されたものです。

個々の資料は、全冊を、サムネイル（小さい



「百人一首（像賛）」

見本）画像の他、ページをめくりながら閲覧する「ぱらぱら閲覧」や、拡大、縮小の機能がついた「ズーム閲覧」の画面でご覧いただけますが、今のところ解説文は一部の資料にしか入っていません。

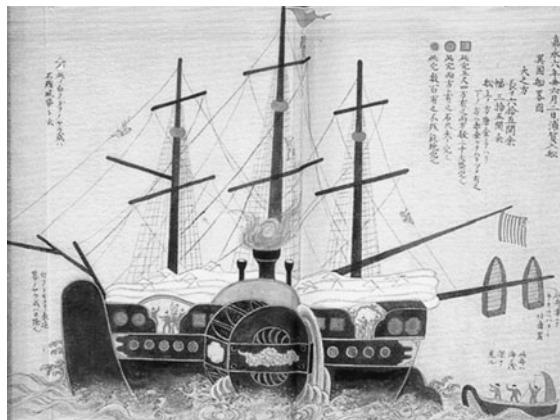
今後は、解説文を充実させるとともに、府立図書館と共同で、これら以外の貴重書も順次デジタル化していきたいと考えています。今後の業務の参考にするため、館内の端末や、ホームページをご覧いただいてのご意見、ご感想をお待ちしています。

（府立図書館のホームページアドレス

<http://www.library.pref.kyoto.jp>）



「伊勢物語」



「東國図品」

東寺百合文書写真帳の閲覧について

再開館を機に、東寺百合文書の写真帳485冊すべてを文書閲覧室内に配架し、自由に閲覧していただけるようにしました。

この写真帳は、A4版横の無光沢紙に印画したもので、『東寺百合文書目録』（全5巻）の順に配列しています。各文書写真の下には函名・文書番号とスケールを写し込んでいます。

また、見たい文書写真の頁に行き着きやすいように、『東寺百合文書写真版分冊表』も設置しています。



不明な点がございましたら、閲覧受付の職員におたずねください。

20世紀歴史資料保存事業

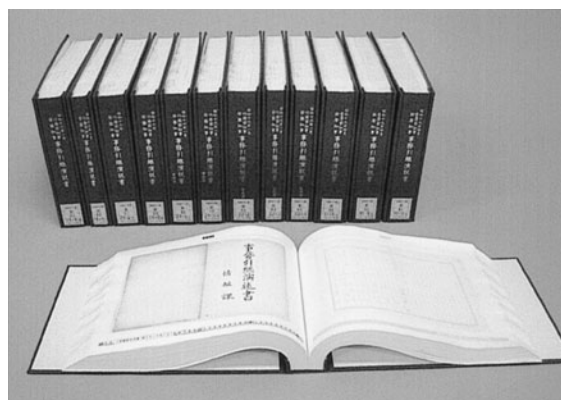
- 知事事務引継書のマイクロフィルム化と複製資料の作成 -

平成11・12の両年度にわたり、20世紀歴史資料保存事業を実施しました。この事業は、21世紀を迎えるにあたり、近現代史研究の貴重な資料となっている20世紀の歴史資料について、その保全を図り、府民の財産として後代に伝えていこうとするものです。

当館では、京都府立庁の明治初年から現在までの行政文書約5万冊を所蔵していますが、このうち経年変化による損傷を受けている資料について、手当てを行いました。その一つである知事事務引継書についてご紹介します。

知事事務引継書は、知事の交替時にその事務を引き継ぐために作成されるもので、「前知事、知事事務引継演説書」という簿冊名がつけられています。この資料は、その時代の京都府政全般について、網羅的かつ概括的に知ることができ、近現代史の研究に欠かすことのできない貴重な資料で、多く利用されています。

当館では、大正末から昭和20年代にかけて作成された35冊を所蔵していますが、酸化による



紙の劣化やインクの退色による文字の消滅等が見受けられ、緊急の保存対策を講じる必要がありました。そのため、保存と利用を視野に入れた現時点で考えられる最も適切な方法として、資料をマイクロフィルム撮影し、紙焼きの複製資料を作成しました。閲覧利用には、この複製資料を提供して原本の損傷を防ぐとともに、紙の劣化やインクの退色等が進行することで将来的に失われることが予想される原資料の情報を、この二次資料によってできるだけ長く保存しようと考えています。

なお、この複製資料については、ラベルの貼付等の装備や個人情報等の閲覧制限情報の手当てをしたうえで、今秋頃から皆さんの閲覧利用に提供していきたいと思っています。

デ・レーケと市川義方

京都府庁文書にみる明治期の砂防工事

相楽郡山城町平尾の不動川を上流に遡ると、昭和63(1988)年に不動川砂防歴史公園として整備された相谷堰堤に行き着く。この堰堤は、明治初期に築造されたわが国最初の近代的な砂防堰堤である。なぜ木津川支流のこの不動川水源で、日本で最初ともいえる近代砂防工事が行われたのであろうか。

山荒れの地

不動川砂防歴史公園のある山城町域は、花崗岩の風化地帯を含んだ山々が多く、土砂の流失がおびただしい地域である。こうしたことから、治水・治山の事業は近世からも取り組まれてきた。貞享元(1684)年以来の『土砂留制度』で、相楽郡は藤堂藩が担当し、京都府が成立するまで続けられてきた。しかし、近世の土砂留普請は、幕府や藤堂藩が事業主体ではなく、それぞれの村が費用や人手を負担する工事であった。

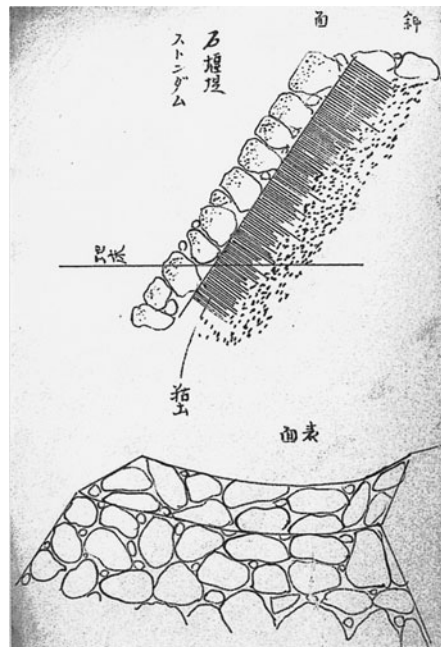
明治に入り、内務省や京都府は、山荒れを防ぐために、淀川上流地域の山林保護の通達を出したり植林の奨励を命じるなど、治山・治水のための政策を打ち出している。

近代砂防工事の始まり

近代的な砂防工事が行われることとなったのには、大阪港を国際貿易港として利用するため、淀川のおびただしい土砂流失を食い止め、大型船舶が接岸可能なようにする必要が生じたことが一因となっている。この大阪築港及び淀川改修工事のために、オランダから治水技術者が招かれ、ファン・ドールンやデ・レーケが来日した。彼らの調査によれば、淀川上流のうち、最も土砂流失が激しかったのが木津川であり、その中でも、特に山荒れが著しかった木津川支流の天神川・不動川水源に、近代砂防工事が施されることとなったのである。

デ・レーケと市川義方

明治8(1875)年から2年間、「デ・レーケ工法」による試験施行を実施した後、明治11(1878)年から本格工事が始まった。この工事は内務省と京都府の共同で行われ、内務省はデ・レーケらのお雇い外国人技師、京都府は童仙房



石堰堤の工法略図(府庁文書 明10・37から)

支庁の市川義方等を派遣した。市川はデ・レーケ工法に批判的で、それは内務省にあてた彼の意見書に見ることができる。二人は、良きライバルとして、その持てる知識と技術を競い合った。こうした競い合いの結果が、その後の砂防技術の向上をもたらしたとも言える。また、従来、外国人技師の功績のみが評価されてきた嫌いがあるが、その裏には近世以来の土砂留技術の蓄積を土台として活躍した市川のような日本人技術者がいたことに目を向けるべきであろう。

明治13(1880)年夏の水害で、デ・レーケ指導の堰堤が崩れたのに対して、市川が築造した不動川相谷の石堰堤は、昭和28(1953)年の南山城大水害にも耐え100年以上にわたり役割を果たしてきたという事実、に、砂防に取り組んだ市川義方の技術面での気概を見る思いがする。

<関係資料>

京都府庁文書「砂防事件」(明10・37)

同 「布令原書」(明12・3・1)

同 「布令原書」(明13・7・1)

同 「砂防工費資料」(明13・40)

(歴史資料課・行政文書担当 古瀬誠三)

最近の収集資料から（～平成13年5月）

◆図書資料

京都

京都狛犬巡り 小寺慶昭著 ナカニシヤ出版
1999 250p

聖三一教会の百年 日本聖公会京都聖三一教会
100年記念誌 京都聖三一教会100年記念誌編纂
委員会編 日本聖公会京都聖三一教会 2000
249p 寄贈

やましろ歴史探訪 南山城史跡散策ガイドブック
斎藤幸雄著 かもがわ出版 1998 124p

私・用務員のおっちゃんです 三浦隆夫著 小
学館 2000 230p

京都北山民俗資料集 岩田英彬著 自作記録
2001 207p 寄贈（著者が新聞記者時代の聞
き書きメモを、主題別に整理、ワープロ打したも
の）

日本新薬八十年史 この二十年のあゆみ 日本
新薬社史編纂グループ編 日本新薬 2000
252, 111p 寄贈

**わが国水力発電・電気鉄道のルーツ あなたは
デブロー氏を知っていますか** 高木誠著 かも
がわ出版 2000 207p

京の味 老舗の味の文化史 駒敏郎著 向陽書
房 2000 330p

京大映画部の記録 1924・2000 京大映画部○
B会 2000 122p 寄贈

歌集春の雪 北島瑠璃子著 短歌新聞社 1998
210p 寄贈

北園町九十三番地 天野忠さんのこと 山田稔
著 編集工房ノア 2000 211p

人文

貴重典籍叢書 国立歴史民俗博物館蔵 歴史篇
文学篇 国立歴史民俗博物館蔵史料編集会編
臨川書店 1998～2000 30冊

中世日本の国家と寺社 伊藤清郎著 高志書院
2000 432, 8p

シリーズ近世の身分的周縁 第1～6巻 高埜
利彦等編 吉川弘文館 2000～2001 6冊



伝記・評伝全情報 95/99 日本・東洋編、
西洋編 日外アソシエーツ編刊 2000 2冊

草花下絵図譜 人間国宝三代田畑喜八 五代田
畑喜八編 東方出版 2000 355p

官庁

日・米・EU・アジア国際産業連関表 1990 通
商産業省大臣官房調査統計部編 通産統計協会
1999 725p

中小企業信用保険公庫史 中小企業総合事業団
2000 423p 寄贈

2020年世界のエネルギー展望 1998年度版
OECD, IEA編 通商産業省資源エネルギー
庁長官官房国際資源課監訳 通商産業調査会
1999 412p

◆文書資料

豊田武氏旧蔵京都関係文書 京都市三条大橋東
詰町に関わる文書5点。元和8(1622)年と明暦
元(1655)年の所司代からの触の写、町中から川
奉行宛の文書の写、二条川原茶屋久右衛門屋敷
地に関する覚などがある。寄贈

京市中取締同心日誌 京都市中取締役所に勤務
した篠山藩士が記した当時の公務日誌と、任務
終了後、藩に戻ってからの断片的な役務に関わ
る日記の2冊。京都市中取締役所は京都町奉行
所廃止後、慶応3(1867)年12月に置かれた組織
で、京都府の前身にあたるものである。

京都武鑑 文化6(1809)年再刻のもの1点。京
都所司代、京都町奉行所の役人など幕府の京都
関係役人の名簿である。

第17回東寺百合文書展のお知らせ

夏の恒例行事として親しんでいただいている「東寺百合文書展」を、本年は総合資料館再開館記念展として9月に開催します。

これまでは、具体的なテーマ設定のもと、いわば全展示品でストーリー性を持たせた構成になっていましたが、今回は少し趣を変えて、「解りやすい」をキーワードに、教科書に取り上げられ、多くの人が一度は目にしたことがある文書を選んで展示する予定です。そして一点一点の文書を単独で取り上げて、そこから史料背景などが解りやすく読み取れるように工夫したいと考えています。さらに、それぞれの文書が現代の我々に投げ掛けてくれる中世の人々のメッセージにも耳を傾けてみたいと考えています。



永仁の徳政令

会期 9月28日(金)～10月28日(日)
(10月8日(祝)・10月10日(水)は休館)
会場 当館展示室(入場無料)

古文書教室・相談のお知らせ

平成13年1月から休止している古文書教室・相談は、11月から再開する予定です。

【古文書教室】古文書の解説・解読

毎月第2木曜日
(11/8、12/13、1/10、2/14)

【古文書相談】古文書の内容や解読の相談

毎月第2火曜日
(11/13、12/11、1/8、2/12)

相談には事前の連絡・予約が必要です。詳細は、次にお問合せください。

歴史資料課・史料普及担当 075-723-4834

友の会事務局から

平成13年度の友の会会員は、6月1日現在で、354人となりました。

その内訳は、表のとおりです。

性別	継 続	新 規	計
男 性	180人(50.8%)	13人(3.7%)	193人(54.5%)
女 性	135人(38.2%)	26人(7.3%)	161人(45.5%)
計	315人(89.0%)	39人(11.0%)	354人(100.0%)

地域別では、京都市居住者が65.4%を、京都市以外の府内居住者が21.4%を、それぞれ占めています。

平成13年度の役員会を、6月15日(金)に開催しました。この役員会で、平成13年度の事業計画が、次のとおり決定されました。

- ・見学会(秋)
- ・現地講座(秋)
- ・再開館記念「きょうと・歴史と文化の木曜講座」(総合資料館と共催)(開催中)
- ・再開館記念「第17回東寺百合文書展」(総合資料館と共催)及び列品解説(10月)
- ・第31回古文書講習会への案内及びテキスト送料の補助
- ・「総合資料館だより」の頒布(年4回)
- ・京都文化博物館の入館料割引
- ・池大雅美術館の入館料割引

日 誌(平成13年4月～5月)

- 5.11(金) 資料館再開館
- 5.24(木) 木曜講座(第1回)開催
- 5.31(木) 木曜講座(第2回)開催

利 用 案 内

休 館 日 祝日(日曜日の場合は、その翌日)、毎月第2水曜日、資料整理期(春季)、年末年始(12月28日～1月4日)

【7月～9月の休館日】

7月11日(水) 7月20日(祝) 8月8日(水)
9月12日(水) 9月15日(祝) 9月24日(月)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交 通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス、**北8** 北山駅前下車
京都バス28、45、46 前萩町下車

発行 京都府立総合資料館

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4

TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています